

まちの話題あれこれ

受け継がれた伝統の舞いを披露

～大槌町郷土芸能祭を開催～

2月11日(月)、城山公園体育館で大槌町郷土芸能祭が開催されました。大槌町郷土芸能保存団体連合会20周年記念となった今回の郷土芸能祭は、町内から13団体が参加。また、国から重要無形民族文化財に指定されている宮古市の黒森神楽がゲスト出演しました。

各団体が受け継いできた躍動感溢れる伝統の舞を披露すると、観客席から盛大な拍手が送られました。

芸能祭を最後まで見た人に話を聞くと、「祭りのように賑やかで、とても楽しい時間を過ごせました。参加している人たちも若く、元気がありました。若い人がたくさん大槌に残って欲しいし、戻ってきてほしいです。」と話してくれました。



世代を越えて、共に演奏

～平成24年度釜石・大槌地区吹奏楽祭～

2月3日(日)、釜石高等学校第一体育館で、平成24年度釜石・大槌地区吹奏楽祭が開催されました。

吹奏楽祭には、釜石・大槌地区から全9団体が参加。町からは大槌中学校、吉里吉里中学校、大槌高校が参加しました。

演奏は、中学校の部、高校の部、一般の部、最後に全員で演奏する合同の部の順に行われ、各部で工夫をこらした演奏を披露しました。中学校の部では、きゃりーぱみゅぱみゅの「ファッションモンスター」にあわせて、かわいらしいダンサーが登場。会場を盛り上げました。

吉里吉里中学校2年生の黒沢美咲さん、小林礼奈さんは「緊張はほとんどしませんでした。楽しく演奏できて良かったです。」と笑顔で応えてくれました。



吉里吉里にありがとう

～明学生からありがとうを伝える会～

2月9日(土)、吉里吉里吉祥寺で明治学院大学の学生ボランティアが「明学生からありがとうを伝える会」を開催しました。

同大学は2011年4月から、町内で様々な支援活動を行ってきました。その中で、吉里吉里の人や文化に触れ、魅了されたとのこと。

「ありがとうを伝える会」では、明治学院大学生が吉里吉里で行った活動の報告や、吉里吉里の人や文化に感謝の気持ちを綴った手紙が読まれました。聞いている人たちの中には、涙を浮かべる人もいました。

これからも、明治学院大学生は吉里吉里での活動を継続していきます。



高齢者支援の新拠点

～ぬくっこサポートセンター開所～

1月28日(月)、吉里吉里第3仮設団地に、ぬくっこサポートセンターが開所、開所式が行われました。

ぬくっこサポートセンターは、町が社会福祉法人堤福祉会に運営を委託。デイサービス事業や生活相談、地域交流の場として利用されます。

開所式では、町長、堤福祉会理事長芳賀陽一氏の挨拶、テープカットが行われた後、堤乳幼児保育園の園児が、参加者した高齢者と一緒に歌ったり踊ったりして、開所式を盛り上げました。

式に参加した平野トシさんは、「外に出ないでむすっとしているよりは、賑やかに過ごすほうが楽しい元気が出ます。どんどん利用したいと思います。」と話してくれました。

